

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.79

2006/06/13

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

生物多様性を誇る「山門水源の森」なのだが・・・



遠足の途中で侵入雑草除去作業をしている塩津小学校のみなさん（06/06/06）



きれいに侵入雑草が除去されたが・・・（06/06/06）

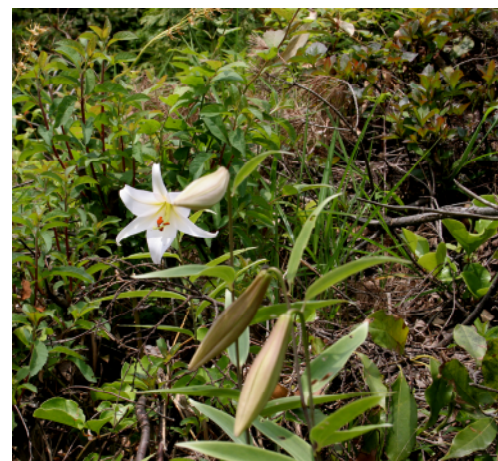
すが、私たち大人はそんな言葉を使いながら巧みに子ども達を使っているのではないかと考え込むことがあります。このことは、今回の取組みをしていただいた塩津小学校の先生方を指しているのではなく、大人社会のことを述べているのです。その大人が、最近の教育がなっていないから、世の中がおかしくなったというのです。大人の生活態度を変えずして、どうして子どもの世界が変えられるのでしょうか。本会は「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」と称してしまいました。汗して無心に大切な森の生きものを守るためにと、草取りをしてくれた子ども達に確実にこの豊かな森を引き継げるよう、気を引き締めて活動してゆかねばと心引き締めた1日でした。

塩津小学校の皆さん有り難うございました。

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

巡り巡って今年も生物の活動が最も活発な6月を迎えた。これまでも本紙で度々ふれてきたが「山門水源の森」の生物多様性の凄さは、県下でも希有なものである。これほどの生物多様性が保全されていたことに、先祖代々この地に係わってこられた地域みなさんに感謝するのみである。しかし、高度経済期以降この地に関わってきた現世代が、この地でやってきたことは何だったのか今改めて考え直すべき時に来ているし、またこれが生物多様性を保全出来る最後のチャンスかも知れません。上の写真は、咲き乱れる花園で楽しく花摘みをしている子どもたちの風景ではありません。「山門水源の森」に外部から侵入してきた雑草を遠足途中の子ども達が除去してくれている風景です。子ども達が植えたものではありません。私たち大人（現世代）が行った後始末を子ども達がやってくれているのです。その側を来訪者は「ご苦労さん!」と声を掛けて通り抜けて行きます。どこかおかしいではありませんか?

世の中は「環境」とか「環境教育」とかが叫ばれていま



咲き始めたササユリ（06/06/06）

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>



ササユリの調査風景 (06/05/22)



全株にラベルを設置 (06/05/22)



水生昆虫調査中の河瀬氏 (06/05/24)



オニヤンマのヤゴ3種



オオコオイムシ

「山門水源の森」の保全を第一義とする本会ではあるが、その根拠となるべき調査研究も同時に進行しなくては、確実な保全活動は不可能である。自然相手であるだけに、私たち人間が直感的に感じる（五感で感じる）ことも非常に重要であるが、その裏付けとなる科学的調査研究を重視しなければなりません。4月以降「ササユリの実生調査」・「ブナの実生調査」・「珪藻調査」(琵琶湖博物館)・「水生昆虫調査」(みなくち子どもの森自然館河瀬氏)等の調査を行っています。他機関の調査の詳細は、結果が出次第本会に提供していただくことになっています。もちろんその成果を勝手に使用することは出来ませんが、「山門水源の森」の生物多様性を本会が更に認識し直すデーターとして活用させてもらいたいことを条件に調査研究に協力する態勢を取っています。



珪藻の予備調査 (06/05/06)



ブナの実生調査・「ブナの森」(06/05/28)



猛禽類に襲われたコゲラ

5月中旬「滋賀県野鳥の会」の探鳥会が行われました。

その際確認されたのはクロツグミ、アオゲラ、アカゲラ、サンショウクイ、コゲラ、メジロ、コガラ、ヒガラ、シジウカラ、ヤマガラ、エナガ、オオルリ、ヒヨドリ、ホオジロ、ウグイス、キビタキ、キジバト、キセキレイ、カワウ(上空)でした。鳥類の調査もまだまだ不完全です。興味をお持ちの方は是非継続調査をお願いしたいものです(伊藤孝子本会会員記録)。

各種調査研究の機会は、HPのスケジュール表に掲載していますので、参考にして下さい。本会の次の調査は、6月17日(土)の西浅井町主催観察会の夜・本会発足以来初めての夜間調査を行います。

